

朝日親子自然環境教室・報告

八木 順一

本会が初めて取り組んだ「朝日親子自然環境教室」。絶好の活動日和に恵まれ、5月28日(日)に無事終了。近畿一円から環境教室参加者62名、シニア自然大学スタッフ11名、そして共催者朝日新聞社関係者1名のほか本会スタッフ24名と98名がサイトにひしめきあう。

開会式では、関係者の挨拶の後、本日のスケジュールや、野外活動の安全のための遵守事項について細かく注意・連絡を受ける。早速記念撮影後、活動場所に散り、本日の活動開始。



今回は里山1・2班、里地3・4班と4つのグループに分かれて、それぞれ全部の場所で活動できるように午前・午後と全場所を順に回る体験活動を行った。

里山体験活動では、ソヨゴの伐採作業とシイタケの本伏せ作業に取り組む。こういった作業をほとんど体験したことのない児童、目を輝かせながらノコギリやはさみを扱う。最初のうちの不器用な手つきも、見ている間に慣れた手つきに。終わりころにはスムーズな道具捌きになった。やはり経験不足ゆえか。また、シイタケの本伏せでも重いほだ木を一人で運びたい、という児童も出てきてびっくり。直射日光は強いが、明るい木漏れ陽を浴びながらの里山の中での移動も十分心地よかったようだ。いろいろな場所で、いろいろな経験を積み重ねて、心豊かに育てて欲しいものだ、と

思わざるを得ない。

また里地体験活動は、農事体験として、サツマイモの植え付けとソラマメの収穫が計画される。

おそらくソラマメやサツマイモがこんな風に植えつけられ、大きく育つなんて初めて知っ



た児童も多かったのではないだろうか。いや児童どころか保護者にもいたのではないだろうか。いずれも興味深そうに、しかしおそろおそろ手を出していた児童の姿が印象に残る。ここで収穫したソラマメ、お土産として児童一人ひとりに手渡されたが、今晚の食卓に上がっているに違いない。

その他、ビオトープでは、網を持って生き物すくいに挑戦。ここが一番面白い、と言った男子児童も多く、昔は何ということのなかったこういった経験も、今の児童には欠けてきているのだな、とここでも実感させられる。数こそ少ないが、ドジョウやザリガニ、そしてメダカまでが網に入る。

そして、その後は本会顧問の「里山の大切さとその保護・整備」と題した



お話。分かりやすく、具体的なお話を聞いて、参加者はどう思っただろうか。今回のテーマ「里山の大切さと農事体験」と絡めて、是非いつまでもここならやまで活動したことを、会員スタッフが一生懸命準備した味噌汁の味とともに覚えておいてほしい、と思う。

最後にアンケートを書き、これもお土産の鹿の折り紙を手にして閉会式。楽しく充実した一日になったことは間違いない。